

プロが教える！失敗しない
子犬の選び方マニュアル

ブリーダーズ 古川 英大・著



はじめに ～犬の十戒

子犬の選び方をお話しする前に、あなたに伝えておきたいことがございます。

『子犬を飼うことは、あなたが想像している以上に大変なことです。』

- 一度飼い始めたら、最期を看取るまで面倒を見なければなりません。
- 生き物ですので飽きたからと言って、簡単に手放すことはできません。
- 迷惑をかけないように、しつけをきちんと行わなければなりません。
- トイレの始末をしたり、お散歩に連れて行かなければなりません。
- 具合が悪くなった時は、動物病院へ連れて行かなければなりません。
- 旅行にも、子犬を飼う前と比べると、気軽に行くことができなくなります。

生き物を飼うということは、それだけの責任と自覚が必要だということです。
かわいいからというだけで飼ってしまうと、子犬を不幸にしてしまいます。

子犬を飼うことは思った以上に大変なこと！

ですけれども、それ以上に素敵な思い出をあなたに与えてくれます。

家庭には笑顔が増え、明るくなるし、さみしさなんか感じなくなります。

(子犬が来てから、娘と話す時間が増えたとおっしゃるお父様もおられる位です)

そう、**かけがえのない家族**が増えるわけですから (*^^*)

あなたに、犬の気持ちを書いた、「犬の十戒」という詩を贈らせていただきます。

映画『犬と私の10の約束』の原作となったことでも有名な作者不明の詩です。

この詩には、子犬を飼ううえで、非常に重要な事柄が記載されています。

犬を飼いたいと思っている方は、これを「守れるかどうか」を確認してみてください。

犬の十戒

1. **My life is likely to last ten to fifteen years. Any separation from you will be painful for me. Remember that before you get alone with me.**

わたしの一生は短く、**10～15年**くらいしかないのです。

ほんのわずかな時間でもあなたと離れていることは寂しくてつらいことです。

わたしと一緒に暮らすのなら、どうかそのことを覚えておいてください。

2. **Give me time to understand what you want of me.**

あなたがわたしに「こうして欲しい」と望むことがあっても、それを理解できるようになるまで、**少し時間**をください。

3. **Place your trust in me- it's crucial to my Well-being.**

わたしを**信頼**してください・・・それだけでわたしは幸せです。

4. **Don't be angry at me for long and don't lock me up as punishment. You have your work, your entertainment and your friends. I have only you.**

長時間わたしを叱ったり、罰として閉じ込めたりしないでください。

あなたには仕事や楽しみがありますし、友達だっているでしょう。

でも・・・**わたしにはあなたしかいない**のです。

5. **Talk to me. Even if I don't understand your words, I understand your voice when it's speaking to me.**

わたしに話しかけてください。たとえ、あなたの言葉そのものは分からなくても、

あなたの声で分かるのです。わたしに話しかけてくれるその声で・・・

6. **Be aware that however you treat me, I'll never forget it.**

あなたがわたしのことをどのように扱っているのか、心に留めておいてください。

私はどのように扱われようとも、そのことを決して**忘れることはない**です。

7. **Remember before you hit me that I have teeth that could easily crush the bones of your hand but that I choose not to bite you.**

あなたがわたしを叩く前に覚えておいてください。

わたしには簡単にあなたの手の骨を噛み砕くことができる歯があるけれども、それでも、わたしは、**あなたを傷つけてはいけない**と心に決めていることを。

8. **Before you scold me for being uncooperative obstinate or lazy, ask yourself if something might be bothering me. Perhaps I'm not getting the right food or I've been out in the sun too long or my heart is getting old and weak.**

わたしのことを「言うことをきかない、頑固だ、怠け者だ」と叱る前に、わたしがそうなる**原因が何かないか考えて**みてください。もしかしたら適切なごはんをもらっていないのかもしれませんが。長時間、太陽が照りつける中、放っておかれたのかもしれませんが。年をとって心臓が弱くなっているのかもしれないのです。

9. **Take care of me when I get old ; you, too, will grow old.**

わたしが年老いていても、どうかやさしく世話をしてください。

あなたも**同じように年をとっていく**のですから。

10. **Go with me on difficult journeys. Never say, "I can't bear to watch it . " or " Let it happen in my absence. " Everything is easier for me if you are there. Remember I love you.**

最期の旅立ちの時には、**そばにいてわたしを見送って**ください。

「見ているのがつらいから」とか「私のいないところで逝かせてあげて」なんて言わないで欲しいのです。あなたがそばにいてくれるだけで、わたしにはどんなことでも安らかに受け入れられます。

そして・・・忘れないでください。わたしがあなたを愛しているということを・・・

不良ブリーダー&悪徳ショップを見分ける方法

(1)知っていることで防げるトラブルも多いです

住宅販売、リフォーム工事、結婚相談、生命保険、葬儀、墓石、浄水器…

これらは、国民生活センターや消費者センターなどの消費者相談で、苦情が多く寄せられ、実際に金銭や契約上のトラブルが非常に多い業態です。

欠陥住宅や、床下換気扇を利用したリフォーム詐欺などは、ニュースでも一時期よく取り上げられていたので、覚えている方も多いのではないのでしょうか？

実は、**ペットの生体販売もこれらと同じくトラブルの多い業態**に当てはまります。実際に国民生活センターや消費者センターに寄せられる苦情件数も上位です。

これらの業態と、ペットの生体販売との共通点が分かりますでしょうか？

…それは、

購買頻度が少ないため、購入者の知識が不足していることです。

新築の住宅を何度も購入したり、何度もリフォームを行う方は少ないでしょう。

同様に、トイプードルやチワワを4回も5回も買われる方は少ないのです。

知識が少ないため、購入者側は「分からないから、おまかせ」状態になりがちで、販売者側のいいなりになってしまうケースが多いのです。

そのため、説明不足や誤解によるトラブルが後々とても発生しやすいのです。

雑誌の特集記事やしつけの書籍などを読むと、子犬は「**優良ブリーダーから直接購入するのが一番**」ときちんと記載されています。これは正しい事実です。

しかし、ほとんどの人たちは、「犬はペットショップで買うもの」という常識にとらわれ、何も考えずに、近くのペットショップで購入することを選んでしまいます。

ペットショップの子犬がどういった流通経路で来ているのか、子犬が死亡しやすい原因は何なのかという、重要事項を知らないで購入してしまうのです。

ペットショップ自体も、購入者がワクチンのしくみや流通のことを詳しく知ってしまうと購入してもらえないため、なかなかそのような情報をオープンにしません。

これでは、トラブルが発生し、無用に悲しい思いをしたり、裁判沙汰になるような、不快な思いをする人が後を立たないのも、無理はありません。

ペットの生体販売は生き物扱う以上、どんなに優良なブリーダーや優良なペットショップでも、100%トラブルを防ぐことは不可能です。

しかし、優良なブリーダーや優良なペットショップは、トラブルのあった後の対応がしっかりしています。

きちんとお客様と向き合い、その後の対応を決定し、投げ出すことはしません。そして、トラブルを減らすように、最大限の努力をしています。

このような優良ブリーダーや優良ペットショップのところから、国民センターや消費者センターまで苦情が寄せられることは少ないでしょう。

では、なぜこのような苦情が消費者センターに寄せられているのでしょうか？
また、実際に新聞等のメディアに苦情が掲載されたりしているのでしょうか？

そこには、ペット業界における深い闇の影、安易に営利目的に走り続ける**悪徳ペットショップ**や**不良ブリーダー**が存在し、また、それを排除する仕組みをペット業界が持ちあわせていないからです。

最近では、インターネットの普及により、ネット上におけるトラブルも急増しています。特に、ペットオークションにおける、**詐欺**まがいの事例が急増しているようです。

ブリーダーズでは、悪徳ペットショップや不良ブリーダーから購入すると起こりやすいトラブルとその原因、初心者が犯しやすい間違い、優良ブリーダーを見分ける簡単な方法を、あなたに知っていただきたいと考えています。

子犬を購入する際に、気をつけなければならないことを知り、その原因や対策法を持って購入にあたれば、**多くのトラブルは未然に防げる**はずです。

知識は力です！

知っているのと知らないのとでは大違いなのです。

知っていても防げないトラブルは、少なからず存在します。

しかし、知らなくて防げないトラブルのほうが圧倒的に多いのです。



(2)悪徳ペットショップ・不良ブリーダーが引き起こす悲劇

子犬選びは家族選びも同然です。

あなたも絶対に失敗はしたくないとお考えなのではないでしょうか？

子犬を飼う前におけるあなたの一番の心配、悩み、不安の種…

それは購入した子犬が病気持ちや不健康などではなく、何の心配もいらない元気で健康な子犬かどうかということですよね。

しかし、新聞や雑誌には、いまだに次のような記事が飛び交っています。

【事例1】朝日新聞記事より一部引用

東京都の会社員A子さん(35)の銀行口座に先月、ペットショップから20万6千円が振り込まれた。2月にメスの小型犬「ミニチュアダックス」を買った際、払った額だ。

この犬は購入当日から、吐いてぐったりするなど様子がおかしかった。Aさんは店へ連れて行き、後日、容体を聞くと、店主は「心臓に穴が開いており、親元に返した。別の犬を渡す」と返答。Aさんは「あの犬でない」と抗議したが、らちが明かず、やむなく元気そうな同種のオスを受け取った。

ところがこの犬も**感染症のため一週間後に死亡**。Aさんが再三の交渉の末、「法的な措置を取る」と言うと、店はようやく返金に同意した。

【事例2】読売新聞記事より一部引用

新宿区に住むHさん(76)は、埼玉県の犬猫即売所で、生後約50日のキャバリアを8万5千円で購入。だが、家にきて16日目の3月9日、**ジステンパーで死んだ**。

買って間もなくしゃみをし出し、食欲もなくなった。獣医は「購入先での感染だろう」というが、即売所は「売った後の責任はもてない」と今も取り合わないという。

信じられないかもしれませんが・・・

いまだに、不健康な子犬を購入させられ、そして・・・家族として迎え入れてから1ヶ月もたたずに死亡してしまうという事例が後を絶たないのです。

子犬の購入者が心身的にショックを受け、「思い出したくない」という気持ちになってしまうため、なかなか事例のように表ざたにはなりません。

「子犬の選び方」と言われたら、あなたは、ペットショップの環境や、店員の態度、子犬の元気さや性格、耳や鼻の様子、骨格などを思い浮かべるかもしれません。

実は、もっと大切なことがあります・・・それは『**子犬を死なせない**』ということです。

たとえ、購入した時点で多少、性格上の問題や、健康上の問題があったとしても、一度でも家族になってしまうと、それはそれでかわいらしいものです。

生きてさえいれば、その問題を解決できる可能性があるかもしれません。

しかし、「死んでしまった子犬を生き返らす」ことは誰にもできません。

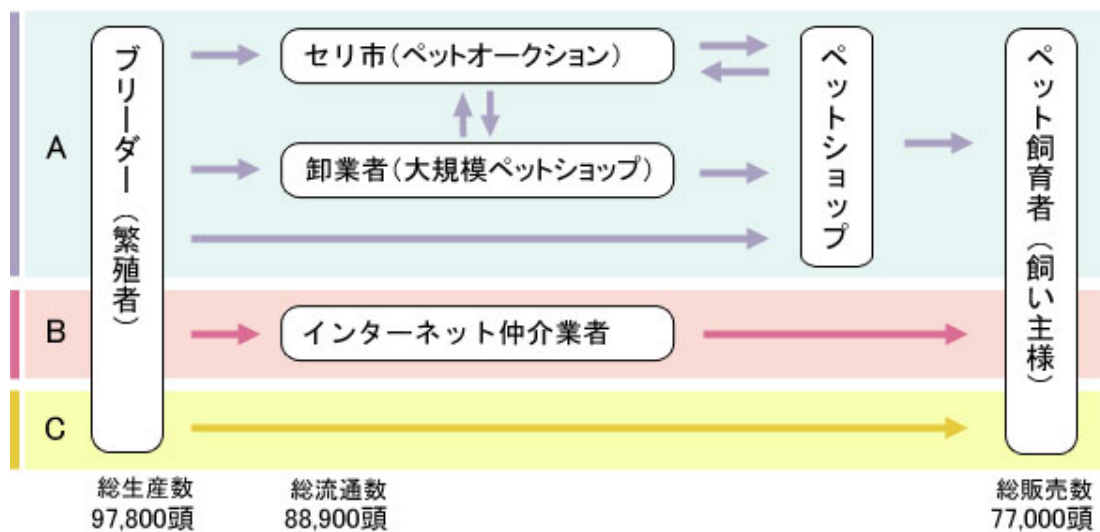
上記の事例も、記事の上では淡々と状況が書かれていますが、一度は縁があって家族となった子犬が苦しみながら死んでいくことは、想像を絶する深い悲しみがあつたと思われれます。

では、なぜこのような事例が多発しているのでしょうか？

なぜ、子犬を飼って悲しい思いをする人が続出しているのでしょうか？

この原因を解明するためには、ペット業界における子犬の流通事情を理解しておく必要があります。

下の図は平成 15 年度の環境省によるペット流通調査の資料をまとめたものです。



現在、日本におけるペット生体の流通方法は、主に 3 つのルートが存在します。

A: ショーケースを用いたペットショップによる店頭展示販売

B: インターネットにおける仲介販売(子犬はブリーダーから飼い主へ直送)

C: ブリーダー自身による直接販売(子犬はブリーダーから飼い主へ直送)

全体の中で大多数を占めているのが、A のペットショップにおける店頭販売です。ブリーダー直営のペットショップを含めると全体の 8 割近くの数にのぼります。

ここで注目していただきたいのが、図の下部に記された総生産数、総流通数、総販売数の 3 つの数字です。(環境省によるアンケート回答集計の数値)

ブリーダーが年間に繁殖する子犬の生産数は 97,800 頭、そこから流通市場に出される子犬の数が、88,900 頭となります。

この差は、生まれてから売りに出すまでに死んでしまった子犬の数と、ブリーダーが繁殖用として自身で保持する子犬の数を合計した数値となります。

次に、ブリーダーから売りに出された子犬数が 88,900 頭、これに対し、飼い主様へ実際に販売された子犬の数は 77,000 頭となります。

では…この差の約 12,000 頭はどこへ行ってしまったのでしょうか？

事例の新聞記事を見て、2つの悲劇の共通点を確認してみてください。

共通点…それは、**ジステンパーやパルボウイルスという「感染症」で子犬が死亡していること、店舗型のペットショップから子犬を購入していること**の 2 点です。

実は、残りの 12,000 頭の多くは、流通段階で事例のような「感染症」が原因で尊い命を落としていると考えられます。大変悲しいことですが、これが現実なのです。

また、12,000 頭の大部分は、A のペットショップのルートを通った子犬です。

B と C のルートでは、子犬はブリーダーより直接飼い主へ引き渡しされます。引き渡しの直前までブリーダーのもとにいるため、引き渡し前に子犬が死亡した場合は、総生産数 97,800 頭と総流通数 88,900 頭の差に含まれるためです。

感染症のほとんどは、ストレスや体調不良により、子犬の免疫機能が低下した際に発症します。

そして、1 頭でも感染症に発症した子犬が出ると、その周りの子犬も連鎖的に次々と感染症を引き起こしてしまうのです。

恐ろしいことに感染症には、「**潜伏期間**」というものがあります。

その期間中にセリ市などという1ヶ所に多くの子犬が集まる場所を経ているら…そのセリ市にいた子犬、すべてが感染症を引き起こす可能性が出てしまうのです。

ペットショップは、仕入れる段階で、その子犬に感染症の可能性があるかどうかまでは分かりません。

その可能性のある子犬を仕入れてしまうと、ペットショップに陳列されている子犬すべてに感染する要因を与えてしまうことになります。

そして、最悪の場合はショーケースにいる**子犬すべてが発症して全滅**という場合すらあります。

さらに、ペットショップのショーケースにいる子犬は、親犬から無理やり引き離され、入れ替わり立ち替わりいろいろな人に見られ、ストレスはピークに達しています。

ペットショップの営業時間自体も長時間化している傾向にあります。
休む暇もなく、ストレスから子犬の免疫力は低下しているといつて良いでしょう。

ここまでで、なぜ新聞記事のような不幸な事例が起きるのか、お分かりいただけるのではないのでしょうか？

セリ市をはじめとするペットショップの複雑な流通過程のどこかで、感染症の可能性のある子犬に接触してしまい、感染症の潜伏状態へ移行



ペットショップでショーケース販売(ここで死亡すると 12,000 頭のうちの 1 頭に)



その子犬が、引き渡し時の急な環境の変化でストレスを感じ、体調を崩し、免疫機能が低下、そのため感染症(パルボウイルスやジステンバー)を発症



感染症(パルボウイルスやジステンバー)は、狂犬病と同じく一度発症すると、回復はほとんど見込めないため、そのまま死亡してしまう

これから家族となる子犬は、元気で健康であって欲しい！誰もがそう考えます。

そのため、書籍やインターネットで勉強して、子犬を選ぶ際の性格、目や鼻の状態、骨格、毛並みなどを気にするわけですが、それ以前に「子犬」を購入するのならば、絶対に考えなければならないことがあります。

あなたが子犬を購入するときに、何よりも一番に気をつけることは、**感染症へかかっていない、または、かかる恐れがない子犬かどうか**ということです。

どれだけ性格や健康状態を気にしても、「死んでしまったら」元も子もありません。そして、感染症を発症する危険性は決して低いものではないのです。

優良なブリーダーや優良なペットショップは、このことをよくわかっており、きちんとした対応を行っています。

感染症は生後 90 日未満の「子犬」にとって、最大限の注意を払わなければならぬ凶悪な敵といえるでしょう。

これらのことはたいていの本や雑誌などでも触れられていますが、あまり大きく扱われることはありません。

でも安心してください。実は、この恐ろしい「感染症」、**ワクチンが開発されており、きちんとした対応をすれば、ほとんどを予防することが可能**なのです。

それではなぜ、予防できるワクチンがあるにもかかわらず、感染症で命を落とす子犬がいるのでしょうか？

次の節では、その疑問にこたえるため、感染症のワクチンについて、詳しく解説をしていきます。

(3) 感染症のワクチン接種は万能？

ワクチンといえば、子犬が病気にかからないように接種する、注射ということはあなたもよくご存じだと思います。

でも…次のような疑問を感じたことはないですか？

「子犬の時はいつ頃に、何回打ったらいいの？」

「毎年打たなければいけないの？」

「ワクチンを打つと、どんな効果があるの？」

「ワクチンを打たないと感染症に必ずかかるの？」

これらの疑問について、ブリーダーズがお答えしましょう！

ワクチンについて深く理解をすることは、これからあなたの家族となる子犬を守ることにもつながります。

■ ワクチン接種時期はいつがいいの？何回打てばいいの？

色々な本を読んでみても、ブリーダーやペットショップの店員に聞いてみても、そして獣医師に聞いてみても、見事にバラバラな答えが返ってくるのがこの質問です。

- ・生後 42 日～50 日目の間に 1 回目を接種 …ペットショップ店員
- ・一般的なワクチン接種は生後 50 日と 90 日に実施 …書籍『子犬の育て方』
- ・生後 60 日、90 日頃の 2 回の接種が一般的 …書籍『室内犬の飼い方しつけ』
- ・生後 2 ヶ月目と 3 ヶ月目にそれぞれ 1 回ずつ計 2 回接種 …獣医師 A
- ・生後 6 週目と 9 週目、更に 12～14 週目に 1 回ずつの計 3 回接種 …獣医師 B

本当に見事にバラバラな答えですね。

でもこれ、誰が間違っているとか、誰が正しいとか、そういった問題ではなく、実は上であげた回答は、ある意味みなそれぞれ正しいと言えるのです。

なぜそう言えるのかを、簡単に説明していきましょう。

生まれたばかりの子犬は、免疫系統が未発達なので、自分で免疫抗体を作ることができません。

抗体を自分で作れるようになるまでは、お母さんの母乳に含まれる移行抗体という免疫抗体により、さまざまな病気から守られることとなります。(母犬が、ワクチンを接種していなく、抗体がないと、移行抗体も当然存在しません。)

まれに母乳を飲む力のないくらい弱い子が生まれることがありますが、その場合は、子犬に免疫力がつかなく、死に至ることが多いのもこのためです…

この移行抗体は、生後3週間～4週間あたりで主食が母乳から離乳食に変わることもあり、生後6週目あたりから徐々に減少し始め、12～14週目には完全に消滅してしまうのです。

この時期になると、子犬も自分自身で免疫抗体を作れるようになってきます。しかし、移行抗体も減少するため、感染症に対する耐性が低くなってしまいます。

そこで、必要になってくるのが、**感染症に対する免疫抗体の作成を補助するワクチン接種**です。

※ワクチンを接種することにより、子犬が自分自身で感染症に対する抗体を体内で作るということです。

しかし、ここで悩ましい問題が一つあります。

移行抗体がまだ大量に残っている内は、ワクチンを打ってもはじかれて抗体が作ることができません。つまり、子犬を守るためのお母さんの移行抗体が、ワクチンを拒否してしまうのです。

『母犬より受け継いだ移行抗体は、いつ切れるかは正確には分からない。また、移行抗体が少なくなると感染症に対して無防備になる。かといって、ワクチンを接種しても移行抗体に阻まれ、効果がないこともある。それでも、この時期、感染症に対して何か対策はしておかなければならない・・・』

この問題を解決するために、考えられたのが**ワクチン接種プログラム**です。

つまり、移行抗体が減少し始める6週目くらいから完全に無くなってしまう14週目までの間に、日数をあけつつ、2～3回に渡ってワクチンを接種する手法です。

ワクチンが効いているかどうかは、血液検査を行い、高いお金と時間を掛ければ調査は可能です。しかし、そんなことをするよりもワクチンを複数回打ってしまったほうが早く安く済むわけです。

検査結果を待つ間に感染症が発症してしまったら意味がありませんからね。また、移行抗体が消えるタイミングは、個体差がありバラバラです。

したがって、上記の「いつワクチンを何回接種すればいいのか？」に対する回答は、最終的に感染症に対する抗体ができればいいわけですから、どれも正しいということになります。

最近のワクチンは、技術の進歩により、母親の移行抗体の影響を受けにくくなってきています。

生後50～60日前後に最初のワクチンを打っている限りは、それほど心配の必要はないでしょう。

人間の予防接種の場合は、一度接種するとたいていは一生にわたり効果をあらわしますが、犬の場合は、その免疫力は徐々に落ちてきます。

初年度のワクチン接種により得られた免疫抗体は、約 1 年間効果が持続しますので、その後は、1 年に 1 回ワクチンを接種するのが理想とされています。

1 年に 1 回ワクチンを追加接種することにより、下がってきた抗体価を再び上昇させ、感染に対する免疫力を高めることができます。(ブースター効果と言います。)

■ワクチンを打たないと感染症に必ずかかるの？

答えは、ワクチンを打たないと必ず感染症にかかるというものではないが、その確率は、打ったときと比べて言葉で言い表せないくらい、高くなるということです。

逆に**ワクチンを打ったからと言って、100%感染症を防げるという訳でもない**です。

ワクチン自体は本来、**感染症に対する予防的な性格**のもので、接種をしていなくても、感染源であるウイルスと接触しない限りは、発症することはありません。

しかし、ウイルスは目に見えませんが、どこで拾ってしまうかは誰にも予測ができません・・・

動物病院やペットショップ、ドッグランなどの動物の多いところは当然として、お散歩中の道端など、あらゆる所にウイルスは存在しています。

家の中に、滅菌状態で閉じ込めておけば、ワクチンを接種する必要はないのですが、そんな状態って、通常はあり得ないですよね？

パルボやジステンパーは、感染すると簡単に死に至る本当に恐ろしい病気です。

この怖い病気を数回のワクチン接種により、ほぼ完全に防げるのでしたら、ワクチン接種の意味は非常に大きいと言えるのではないのでしょうか？

子犬の命を守るためにも、ワクチン接種は、必ず行うようにしてください。

特に、子犬の引き渡しの時が一番注意を要します。急な環境の変化でストレスを感じ、免疫力が低下して感染する確率が飛躍的に高まります。

たまに、母親の抗体がまだ残っているから、ワクチンを打たないで引き渡しても問題ないというブリーダーやペットショップがありますが、これは言語道断だと言わざるを得ません。(悪徳ペットショップ、不良ブリーダーに多いです。)

必ず、**第1回目のワクチンを接種後、生後50～60日以降に引き渡し**を行うようにしてください。また、ワクチン接種後は、**最低でも3日間は安静**にさせて、それから引き渡しを行うようにしてください。

まとめると、生後50～60日前後にペットショップまたはブリーダー段階で1回目のワクチンを接種し、引き渡しを行えば、大切な子犬が感染症で死ぬ確率は、ほぼゼロになるということです。

…では、なぜ冒頭のような事例がなくなるのでしょうか？

ワクチン接種はあくまで予防的な性格だということを思い出してください。

接種前にすでに感染病に感染しており、潜伏状態にあったなら…予防的なワクチン接種では意味がなく、ストレス等で感染病を発症してしまうのです！

ワクチン接種前に感染する原因は、日本のペット業界の最大最悪のしくみである、「子犬を店舗で展示販売させるための流通」にあることは誰が見ても明らかです。

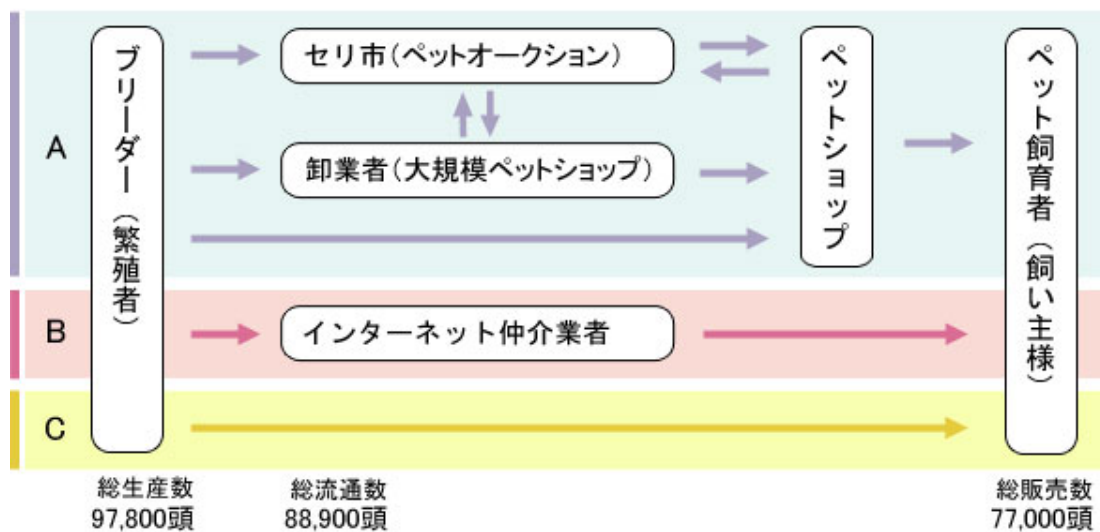
(4)日本の常識は世界の非常識 ～ペット流通の問題点

子犬をペットショップで購入された方が周りにいましたら、その子犬が「どこで生まれ、どのような経路で店頭に表示されたのか」を聞いてみてください。

…おそらく答えられる方はいないでしょう。

真実を知ってしまうと、ペットショップで購入した子犬が、感染症にかからずにまっとうに成長してくれたら、ある意味でラッキーだったのがよく分かるかと思います。

ここで、もう一度、日本のペット流通調査の資料を見てください。



A のペットショップ販売のルートでは、子犬は、3 つの経路を通過して、ペットショップの店頭(ショーケース)へ展示されています。

- 経路① ブリーダーからセリ市(ペットオークション)を通りペットショップへ
- 経路② ブリーダーから卸業者(大規模ペットショップ)を通りペットショップへ
- 経路③ ブリーダーから直接ペットショップへ

ここで注目していただきたいのは、経路①の「セリ市」と経路②の「卸業者（いわゆるブローカー）」という二つの中間流通業者です。

上記の環境省の調査ではセリ市で取り扱われる数は 22,300 頭、卸業者で取り扱われる数は 8,700 頭で、合計は 31,000 頭。

ブリーダー直営のペットショップを除いた店頭ペットショップの流通子犬数は、53,500 頭ですので、いまだにペットショップの流通の半数以上を占めている日本最大の流通手段となります。

※こちらの数字はあくまで環境省のアンケートに回答した業者のみ反映されていますので、実際の流通数は、この数字の 5 倍程度に及ぶと予測されます。

数日おきに全国各地で開催されるセリ市は、子犬を連れたブリーダーと、仕入れのために来場したペットショップ店長やブローカーで常に盛況な状態です。

そして、セリ会場中央に設けられたカメラ付きのケージに、子犬が次々に入れられ、ペットショップ店長やブローカーが、目当ての子犬にどんどん入札していきます。（関東の大規模セリ市では、1 日に 400 頭前後が取り引きされるそうです。）

ペットという生き物ではなく、あくまでモノを扱うようなイメージですね・・・

ペットショップにおいて子犬は、一番かわいらしく、また、そのために販売しやすい、生後 45 日前後より、ショーケースに展示されるのが通常です。

・・・では、このセリ市では、生後何日前後の子犬が主に取引されるのか？

逆算すれば分かると思いますが、ほとんどが**生後 40 日前後**の子犬です！

これは、子犬に「感染症にかかってください」と言わんばかりの恐ろしい状況です。
ワクチンの移行抗体に関する記載を思い出してみてください。

『この移行抗体は、生後 3 週間～4 週間あたりで主食が母乳から離乳食に変わる
こともあり、生後 6 週目あたりから徐々に減少し始め、12～14 週目には完全に消
滅してしまうのです。』

生後 40 日前後は、ちょうど移行抗体が切れ始めるデリケートな時期です。

40 日ですから、まだワクチンは接種していませんし、もし、接種していたとしても移
行抗体にはじかれる可能性が高く、ほとんど意味をなしません。

さらに、パルボウイルスやジステンバーなどの感染症は、早期発見が非常に難しい
病気であり、潜伏期間中に見た目で判別することは、獣医師でも不可能です。
発症して、症状が出て、はじめて感染症にかかったことが分かるのです。

つまり、感染症に感染していても、発症する前の潜伏期間中であれば、子犬がセリ
市のケージに入れられた際に、判別することはできないということです。

また、セリ市は大量のどこからきたかわからない子犬が通っていく場所です。

感染している子犬に触れてしまったり、感染している子犬が入ったケージに感染症
のウイルスが付着している可能性は十分にありえます。

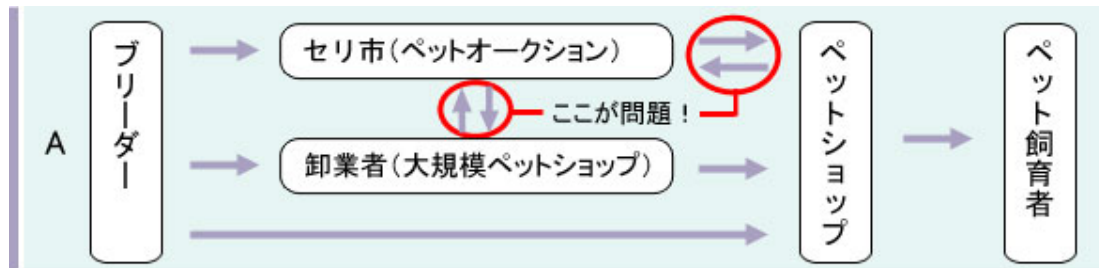
抵抗力が低い、この最も危険な時期に、このような危険な場所にさらされたら・・・

恐ろしい現実が見えてきますね。。。

**1 頭でもセリ市の中に、パルボウイルスやジステンバーの潜伏期間中の子犬がい
たら、その場にいた全ての子犬が感染する可能性があるということです。**

実は、日本のペット流通がかかえる問題は、セリ市だけではないのです。

もう一度、日本のペット流通調査の資料の A のルート部分を見てください。



実は、ペットショップのショーケースに子犬が展示されるまでのプロセスは、

ブリーダー → 中間流通業者(セリ市・卸業者) → ペットショップ

という一方通行の流れだけではありません。

ペットショップがブリーダーから仕入れた子犬をセリ市に売り出し、卸業者がセリ市でその子犬に入札し、別のペットショップに販売ということもありません。

セリ市、卸業者、ペットショップ間でグルグル子犬が行き来しているわけです。

これは、**抵抗力の弱い生後間もない子犬に対して、感染症ウイルスへの接触機会を無用に増やしている**も同然です。

また、どこで感染したかを特定することも不可能なため、環境改善も行われず、ウイルスが蔓延する要因の一つとなっけてしまっています。

(特定ができないため、劣悪な環境の不良ブリーダーの温床となっています。)

いくら良いワクチンが開発され、接種のしくみができていても、感染症で子犬が死亡するトラブルが絶えない理由の根源はここにあります。

現在、日本では、この中間流通業者を通して、多くの子犬がペットショップのショーケースに並べられ、当たり前のように販売されています。

そして、その流通段階で、多くの子犬が命を落としています。

流通段階で死んだ子犬は名前さえ付けられず、また事例のように新聞記事になるようなことすらありません。

悲しく、誰にも心配されずに、そして死んでいくのです・・・

このような、まるで**子犬をモノのようにあつかうセリ市などの中間流通システムは、イギリスやアメリカをはじめとする欧米諸国にはもちろん存在しません。**

欧米諸国の人には、日本はペット後進国だと非難されるありさまです・・・

なぜこのような中間流通がまかり通っているのか？

その主な原因は、ペットショップのショーケース展示販売にあると言えるでしょう。

ショーケースで、生後間もない売りやすい子犬を、常に大量に展示するため、物品販売における問屋のような機能が求められたことが要因です。

大きなペットショップでは、全国に散らばるブリーダーから1頭1頭仕入れていたのでは、事務コストが跳ね上がってしまうためだそうです。

子犬のことを生き物としてではなく、モノ、商品としてしか見ていないのがよく分かりますね・・・

次の節では、この問題のショーケース販売にメスを入れていきます。

(5) ペットショップのショーケースにいる子犬は元気に見えますか？

あなたをご存知ですか？

ペット先進国であるイギリスやフランス、ドイツ、アメリカなどの欧米諸国では、生後間もない子犬の店頭ショーケース販売が法律で禁止されていることを・・・

もちろん、セリ市やブローカーなどという諸悪の根源の中間流通業者も法律で罰せられるため、存在しません。

イギリスでは、店頭販売をしていなくても、生後間もない子犬を人目の付くところに置いておいただけで、法律で罰せられてしまうくらいです。

ショーケース販売を禁止する理由は、主に次の3つであるといわれています。

1. 子犬のストレスや免疫力の低下により、感染症の発症を防ぐ目的
2. ペットの衝動買いを防ぎ、捨て犬を減らす目的
3. 子犬の性格形成にとって、大切な社会化期を重要視しているため

つまり、欧米では子犬がかわいそうという感情的な理由だけではなく、感染率と、しつけのしやすさといった合理的な側面から、法律で禁じられているのです。

これらを逆に考えると、日本のショーケース販売の問題点が浮き彫りになります。

1. 子犬のストレスを増やし、免疫力の低下から、感染症を発症しやすくなる
2. 衝動買いを誘発し、保健所に連れて行かれる犬や捨て犬を増やしている
3. 性格形成に重要な社会化期を孤独に過ごし、しつけのしにくい犬になる

順番にショーケース販売の問題点を分かりやすく解説していきますね。

■子犬のストレスを増やし、免疫力の低下から、感染症を発症しやすくなる

ペット流通の項目でも説明しましたが、セリ市の中に、感染症の潜伏期間中の子犬がいたら、その場にいたすべての子犬に感染する可能性がでてきます。

また、同様に、その子犬がペットショップのショーケースに展示されると、ペットショップ内のすべての子犬に感染する可能性がでてきます。

ただし、この段階では、あくまで、まだ「可能性」なんですね。

ウィルスに接触した子犬のすべてが、感染症を発症するわけではありません。

ワクチンの項目でも述べましたが、生後間もない子犬にはお母さん犬から受け継いだ移行抗体が存在します。

仮にウィルスと接触しても、お母さん犬から受け継いだ移行抗体がしっかり機能していれば、ワクチンによる抗体ができていなくとも、感染しないのです。

どのような状況で発症するかというと、ストレス等で体調を崩した際に、免疫力が低下し、感染、発症します。

つまり、**健康な状態なら多少のウィルスに接触しても発症せず、逆に体調をくずしている時は、わずかなウィルスに接触しただけで発症してしまうのです。**

…もうお分かりですね。

ペットショップのショーケースに入っている子、元気がない子が多くないですか？

ショーケースにいる子犬は、親犬から早くから引き離され、入れ替わり立ち替わりいろいろな人に見られ、そのストレスはピークに達しています。

いくら人間の7倍のスピードで成長する犬でも、生後40日前後は、人間でいえば1歳にも満たないよちよち歩きの赤ちゃんです。

お母さんから無理やり引き離された赤ちゃんをセリ市にかけ、ショーケースに何日も閉じ込められたら、ストレスで病気にかかるのも無理はありません。

また、ペットショップの営業時間も長時間化する傾向にあります。休む暇もなく、ストレスから子犬の免疫力は低下しているといつてよいでしょう。

もちろん、ブリーダーから直接購入する場合でも、ショーケースと同じような劣悪な環境(不潔、不適切な食事、孤独など)にいたら、免疫力の低下は免れません。

優良なブリーダーやペットショップはこのことをよく分かっているため、ストレスのかからない環境づくりに気を配らなければならないことを熟知しています。

優良ブリーダーであればあちこちへ連れ歩くようなことはないですし、優良なペットショップであればショーケース販売を全くしていないか、していても展示する時間は1日のうち2~3時間と決めているところがほとんどです。

■衝動買いを誘発し、保健所に連れて行かれる犬や捨て犬を増やしている

ペットは、私たちの生活に欠かすことのできないパートナーとなりつつあります。今や日本のペットの総数が、子供の人口を抜くという現象まで起きているのです。

2004年度における、日本中のペット(犬猫以外も含みます)の総数は1922万匹。それに対し、15歳未満の子供の人口は1790万人です。

これは、ペットが家庭の中で、家族としての地位を確立してきた、ひとつの現象といつてもいいでしょう。

たしかに、ここ最近では「子供は育てられないがペットなら」といって、犬や猫を飼う方も増えてきたように感じます。

しかし、その影で、毎年 70 万頭近くのペットが心ない人たちに捨てられています。

捨てられたペットは保健所に持ち込まれ、ほとんど引き取り手がなく一週間前後で殺処分され、幸運にも飼い主が見つかる確率は犬でも約 3%程度です。

保健所による犬・猫の殺処分数だけでも毎年 40 万頭近くのにのぼるのです。。。

・・・知っていましたか？

犬の一番の死因は事故死でも病死でもなく、保健所による殺処分です。

また、処分される犬の約半分は、飼い主により保健所へ持ち込まれています。

- ・ 思ったより大きくなったから、もっと小さい犬が欲しくて
- ・ 飽きちゃったから
- ・ 言うことを聞かないから

こんな、理由で保健所に家族を連れて行く、非常識な人が後を絶たないのです・・・

あなたが、そんな非常識な人でないことはよくわかっています。

そのような人は、ここまでこのマニュアルを読み進めることもないでしょう。

このようなことが起きる根源は、ペットショップにおける「**衝動買い**」にあります。

冒頭にも書きましたが、犬を飼うことは決して簡単なことではないのです。

しつけどって書籍に書いてあるほど、簡単なものではありません。

毎日のトイレやお散歩の世話をしてあげなければならないのです。

それを、買い物のついでに寄ったペットショップで「目があったから」、「子供にせがまれたから」、「はやっているから」という理由で、何の準備もせずに購入したら…

結果は目に見えていますよね。

ペットショップによるショーケース販売は、「衝動買い」を前提としています。

希望する「犬種」、「毛色」、「性別」などの条件を絞り込んでいくと、ペットショップに展示されている犬の中に、希望の子がいる確率はゼロに近くなってしまいます。

どうしても、そこに妥協が生まれてしまうのです…

妥協して、「この子犬でいいや」と、衝動的に購入を決めてしまうわけです。

あなたには、決して妥協せずに希望の子犬を探していただきたいと考えています。苦勞して探した希望の子犬を、保健所に連れて行く人はまずいないでしょう。

ある程度、犬を飼うことに慣れている方でしたら、保健所にいる子を里親として引き取ることも、選択肢の一つに入れてみてください。

(人間不信に陥っている子や、しつけ放棄により攻撃性が出てしまっている子もいますので、どうしても万人にオススメできるわけではないのが残念ですが…)



■性格形成に重要な社会化期を孤独に過ごし、しつけのしにくい犬になる

子犬の引き渡しは、生後 60 日～90 日位までが最も望ましい時期です。

早すぎても、遅すぎても子犬にとっては、よくないことばかりなのです。

なぜなのかを、子犬の社会化期の解説を交えながら説明していきます。

1. 子犬の社会化期ってなに？

社会化とは、子犬がお母さん犬、兄弟犬、飼い主（子犬から見ればリーダー）や、他の人間や動物、環境とふれあいながら社会勉強を行っていく過程です。

一般的に社会化期とは、**生後 3 週間から 14 週間**までの期間だといわれています。

さらに詳しく見ていくと、社会化期には生後 3～8 週齢までの社会化期前半と生後 8～14 週齢までの社会化期後半とがあり、それぞれに役割があります。

人間には、「3 つ子の魂 100 まで」という格言がありますよね？

犬も同じで、この時期に学んだことが、一生に影響を及ぼすのです。

2. 母犬や兄弟犬と過ごす社会化期前半と飼い主と過ごす社会化期後半

社会化期の前半では、**お母さん犬や兄弟犬とのじゃれ合いやケンカを通して、犬としての行動の基本ルールを学んでいきます。**

強くかんだら叱られること、服従姿勢をとって争いを避けること、逆に服従姿勢をとった相手に対し攻撃をしてはいけないこと、上下関係のルールなど、犬社会の基本を覚えていきます。

お母さん犬は、子犬の離乳が始まり、歯が生えてきた頃になると、犬の本能から、子犬の自立をうながすために、子犬を避けるようになります。

(子育てに慣れていないお母さん犬ですと、子犬にケガをさせてしまうくらいです。)

離乳の時期になると、優良なブリーダーは、事故を避けるため、お母さん犬と子犬を引き離すことが多いです。その後は、兄弟犬同士で社会化を行っていきます。

社会化期の後半では、お母さん犬や兄弟犬以外の犬や動物、人間、飼い主(子犬にとってはリーダー)とふれあいながら社会性を身につけていきます。

この時期は、**子犬のリーダーである飼い主自身で、子犬がこれから育つ環境や、人間社会のルールに慣れさせてあげることが重要**です。

3. 社会化期にいろいろなことを十分学べないとどうなるの？

あまりに早い時期に親兄弟から離されてしまうと、情緒不安定になりやすいです。

また、犬同士の付き合い方を学ぶことができなかつたために、他の犬に会うたびにケンカをしかけたり、必要以上に怯えるなどの**問題行動を起こりやすくなります**。

攻撃性を抑制することができず、他の子犬や人間の子供など、自分より弱者に対しておそいかかる等の深刻な問題を引き起こす子もいます。

他にも、上下関係のルールを知らないため、**しつけも難しくなる**傾向にあります。

逆に、今度はお母さん犬や兄弟犬から引き離すのが遅れると、犬仲間におぼれ、人間との連帯感が持てずしつけや訓練が難しい犬になってしまいます。

引き渡し時期が、早くすぎても、遅すぎてもいけない理由は、ここにあるのです。

もう、ここまででお分かりですね・・・

ペットショップのショーケース販売では、生後 45 日前後のかわいらしく、売りやすい時期から、子犬が展示されるようになります。

大切な社会化期前期である生後 40 日前後に、親兄弟から引き離され、他の犬と接触することもない、狭い空間のショーケースの中で孤独に過ごします。

ペットショップのショーケース出身の犬は、しつけがしにくく、吠える、噛むといった問題行動を起こしやすいといわれる理由の根源がここにあります。

また、問題行動を起こした犬の行きつく先が、最悪、保健所というわけです。

これまでのお話しで、日本のペット流通のスタンダードであるペットショップの展示販売が、いかに危険であるかよく理解していただけたのではないのでしょうか？

このような環境にあっては、「子犬選びの際は、元気さや性格、耳や鼻の様子、骨格、毛並みを確認する」というよく本に書いてある話どころではないですよ。

それ以前の問題であることが、よくお分かりになるかと思います。

もちろん、ペットショップのすべてが悪というわけではありません。
問題なのは、セリ市やブローカーから仕入れた子犬を、長時間ショーケース販売しているペットショップなのですから。

では、どこから子犬を購入すればいいのか、また子犬を選ぶ際にどの点に注意すればいいのか？

優良ブリーダー・ペットショップの判別方法を交えて、次の節で解説いたします。

(6)プロが教える失敗しない子犬の選び方

■間違いだらけの子犬選び

ペット関連の雑誌や書籍、インターネット上のコラムなどで、よく「子犬の選び方」に関する特集が組まれています。

あなたも、ご覧になったことがあるのではないのでしょうか？

- ・ 被毛、目、鼻、耳、肛門などをしっかり見て、健康な子犬か判断しましょう。
- ・ 骨格のいい、見た目よりずっしりと重い子が質の良い子犬です。
- ・ 元気で活発な、人なつっこい子犬を選びましょう。・・・などなど

でも、「見た目よりずっしり」といわれても、重いような軽いような??・・・ですよ。

しかも、これらのチェックをブリーダーやペットショップ店員の目の前で、視線を気にしながら、短時間で済ませなければならないのです。。。

なかなか、難しいのが現状ではないのでしょうか？

子犬を前にその質を判断することは、長年の経験を積んでいないと難しいです。何頭も子犬を見て、比較できるようにならないと、正しい判断ができないからです。

また、プロでも、きちんと調べるには、それなりの時間が必要になってきます。

ペットショップやブリーダーの犬舎で、子犬と接触できる時間って短いですよ・・・

正直、この時間内で**健康状態から性格までを完璧に把握することは、プロでも難しいこと**なのです。

また、チェック項目についても、間違っただけを書いているわけではないのですが、状況を限定した「決めつけ」がかなり多いように感じます。

あなたが誤解をする可能性がありますので、簡単に補足をさせていただきます。
(実際に、販売されている書籍「子犬の選び方」のチェック項目をもとに)

1. よく動き、元気で活発であること

子犬は、1日に14時間～17時間くらい寝続けます。

眠い時は、どんなに元気で健康な子犬でも活発ではなくなるものです。

また、人間にも体調があるように、子犬にも調子が良い時・悪い時があります。
これを一番の判断基準とするのは、ちょっと厳しいでしょう。

2. 肛門まわりがきれいなこと

「下痢をしていないか？」を確認したいのだと思いますが、これは子犬の生後日数によって状況が変わってきます。

通常は、乳歯が生え始める生後30日前後より、徐々に離乳食に切り替えます。

この時期のウンチは柔らかい下痢気味となるのが通常です。

逆にこの時期に固いと、離乳を早めているか、薬を与えているということです。

母乳をきちんと飲ませていないと、移行抗体が少なく抵抗力が付きません。
また、薬を与えると腸内バランスが崩れ、お腹の弱い子になってしまいます。

その後、生後45日程度で、ウンチはコロコロとした固めのものになります。

3. 鼻が湿っていること

寝ている時、寝て起きてすぐは、元気で健康な子犬でも鼻は乾いています。
鼻が炎症やひび割れ等を起こしていない限りは、心配しなくても大丈夫です。

4. 目ヤニや鼻水が出ていないこと

いずれも、大量に出ていない限りは、それほど心配の必要はありません。

目ヤニは、人間と同じく寝起きすぐは、健康な子犬でも付いているものです。

鼻水も少量は問題ないですが、ずっと出ている場合は、ケンネルコフ(人間で言う風邪)にかかっている可能性があります。

ただし、簡単に治療可能で、命にかかわらないため、それほど心配はいりません。

5. 耳の中が異常に臭くない、また汚れていないこと

犬の耳の中が臭うのは当たり前ですので、異常かどうかの判別はある程度経験を積んでいないとできません。

犬は、遺伝的にフィラリアに寄生されないよう、蚊よけの臭いを発しているのです。

耳の中が汚れている場合は、耳ダニがいる可能性があります。

ただし、これも命にかかわるものではなく、簡単に治療が可能です。

耳ダニは、ブリーダ一段階でどんなに清潔に気をつけていても、100%取り除くことが難しい性質のものです。

6. 口が異常に臭くないこと

口臭についても、耳の臭いと同じく、異常かどうかの判別はある程度経験を積んでいないとできません。

鼻がまがるほどの悪臭がしない限りは、気にする必要はないでしょう。

子犬の時に、歯ぐきがきれいなピンク色をしていれば、問題はないです。

7. 抱いてみて、見た目より重く、骨量があること

見た目より重いかどうか、骨が太いかどうか、普段から子犬を抱いていないと、正確な判断することは難しいでしょう。

あなたが判断できるのは、子犬が痩せすぎているかどうかということです。

特に小型犬の場合は、小さい子の方が高く売れるため、大きくならないよう、わざと適切な量のごはんを与えない不良ブリーダーや悪徳ペットショップが存在します。

この時期の、痩せすぎは、成長不全を起し、将来にわたって影響を及ぼします。抱いてみて、あばら骨がはっきりと分かるようでしたら痩せすぎを疑ってください。

8. オス犬の場合は、睾丸が二つ降りていること

生後 60 日前後では、睾丸が二つとも降りている子の方が稀です。

将来的に降りてくる子もいれば、降りてこない子もいます。

この時点で、正確な判断を下すことは、プロでもできません。

ここまで見てくれば、実際に子犬を見て触るだけでその質を判断することは、素人にはほとんど不可能なのが、よくわかるかと思います。

また、性格についても、生後間もない頃のことにはすぎませんので、あくまで参考程度にとどめておいた方がいいです。

**人間の子供と同じで、性格は、迎え入れてからのしつけ方や接し方で、大きく変化
するからです。**

しつけ次第で、おとなしい犬がうるさい犬になったり、うるさい犬がおとなしい犬になったりということは簡単に起こります。

**あなた自身が子犬の健康や性格をチェックできないのならば、あとはペットショップ
やブリーダーが「どれだけ信頼できるのか」という点で判断するしかありません。**

感染症にかかっていないか、遺伝病の可能性はあるか、問題のある性格かどうかといったことは子犬の見た目からは決して判断ができないからです。

今までに、あなたは子犬を死なせないために重要な、「ワクチン接種プログラム」、「流通方法」、「環境」、「引き渡し時期」などの知識について学びました。

あなたの知識レベルは、ここまででかなりのレベルに達しているといえます。
(下手なペットショップの店員より、確実に上に達していると思いますよ。)

この子犬を死なせないための知識をふまえて、信頼できる「優良ブリーダー」と「優良ペットショップ」を選ぶ基準を明確にしていきたいと思います。

■インターネットでの購入における注意事項

優良ブリーダーやペットショップの選び方を解説する前に、子犬を購入する上で重要な注意事項がありますので、まずそれを明記させていただきます。

現在、インターネットが発達したこともあり、ペットショップ、ブリーダー、仲介事業者を問わず、ホームページ上から直接子犬を購入することが可能になっています。

その際、購入までに実際に子犬の実物を見ることなく、写真やメール上のやり取りのみで子犬を購入する、通販のようなことも可能になっているのです。

(その場合、子犬自体は、近くの空港まで空輸もしくは陸送で送られてきます。)

もちろん、優良なブリーダーやペットショップ、インターネット仲介事業者でしたらこの方法でも、何も問題なく健康な子犬を購入できることでしょう。

しかし、引き渡しまで実際に会えないということを利用し、悪事を働く悪徳なペットショップやブリーダー、インターネット仲介業者が少なからず存在します。

- ・ 実際送到了きた子犬が、写真の子犬と違っていた
 - ・ 最初から病気にかかっている子犬が送到了きた
 - ・ お金を振り込んだのに子犬が送到了こなかった
- ・・・などなど、数多くのトラブルが報告されています。

こういったトラブルを避ける意味でも、実際にブリーダーやペットショップに足を運んで、子犬を確認した上で購入を決められることをおすすめいたします。

インターネットは、生まれている子犬の情報収集のみに利用するというわけです。

少なくとも実際の子犬をその目で確認しておけば、上記のようなトラブルはほぼ防ぐことが可能です。

ただし、住んでいる場所の関係で、希望の子犬を販売しているブリーダーやペットショップを近くで見つけれない場合もあるかと思えます。

あくまで最終的には自己責任ですが、極力トラブルに遭わないために、その方法をお教えしていくようにいたします。

1. 身元確認をしっかり行う

メールアドレスだけのやり取りではなく、住所や電話番号などの連絡先が分からなければきちんと聞いておきましょう。

(メールのやり取りだけでなく、実際に電話で話してみるほうがベストです。)

それぞれのチェックポイントを簡単に明記しておきます。

① メールアドレス:

・・・@yahoo.co.jp や・・・@hotmail.com などのフリーのメールアドレスではなく、プロバイダのメールアドレスでしたら、身元がはっきりしますのでより安全です。

フリーのメールかどうかは、こちらで判別が可能です。

<http://www.web110.com/fmchecker/form.html>

ただし、ブリーダーの中には、使いやすいヤフーのメールアドレスを好んで使用している方もいます。

他のメールアドレスを持っていない場合は、より慎重に身元確認をしてください。

② 電話番号:

携帯電話(090、080)や IP 電話の番号(050)ではなく、固定電話の電話番号でしたら、身元がはっきりしますのでより安全です。

③ 住所

ペットショップの場合は、タウンページに登録されているか確認をします。

(<http://itp.ne.jp/>にて、業種をペットショップもしくはペットショップ(犬)で検索)

ブリーダーの場合は、優良ブリーダーを見分ける方法の項目でも詳しく説明しますが、「動物取扱業登録証」を FAX 等で送ってもらい確認するのがベストです。

・ できるだけ多くの写真や動画を取り寄せる

写真 1 枚で購入を決めることを避け、できるだけ多くの写真や動画を取り寄せてから、購入を判断するようにしてください。

・ インターネットオークションサイトや出産情報掲示板の利用は避ける

インターネットオークションサイトと子犬の出産情報掲示板は、どちらもその匿名性から、トラブルが非常に多くなっています。見学なしでの利用は極力避けましょう。(ヤフーオークションでは、この点をふまえ生き物の出品は不可になっています。)

・ 場所的に子犬の見学に行けない場合でも、あえてお願いをしてみる

場所的に見学に行けない場合でも、まずは見学をお願いをしてみましょう。(遠い場合は、「そちらの近くに出かける用事があります」などと言って)

やましいところがあれば、見学ができないと断わりを入れてくるはずです。

すぐに「予定が変更になって、見学が難しくなった」と伝えれば、ブリーダーやペットショップに迷惑がかかることはないでしょう。

■優良ブリーダー&ペットショップを見分ける方法

いよいよ、これから信頼できるブリーダーとペットショップを見分けるための方法を説明していきます。

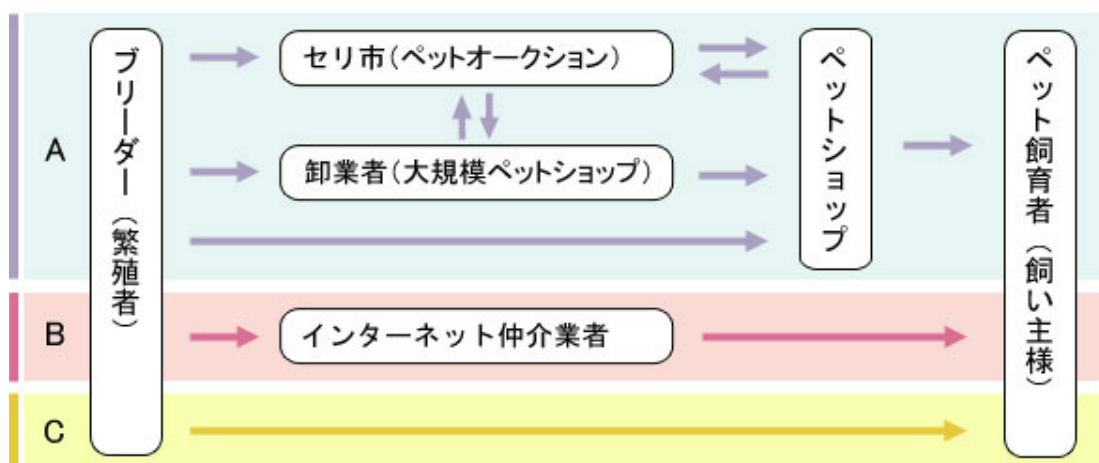
これから説明するポイントをしっかり押さえて、信頼できる購入先を探していただければ、子犬選びで大きく失敗するということはないでしょう。

ブリーダーやペットショップ選びで、一番重要なポイントは、「子犬やお母さん犬に対して愛情をもって接し、きちんとした知識を持っているか」という点に尽きます。

愛情がなければ、子犬が健康な状態で良い性格に育つということはありません。犬の子育ても、人間の子育ても、基本は全く同じだということです。

知識とは、今までに学んだ「子犬を死なせない」ための知識を、きちんと持っているブリーダーやペットショップかということです。

子犬の購入方法は、おもに A から C の 3 つのルートがあると説明いたしました。それぞれ、信頼できる購入先の見分け方を説明していくようにいたします。



1. 信頼できる購入先を選ぶうえでの共通項目（A～Cのルート共通）

① 動物取扱業登録をきちんと済ませているか

「動物愛護管理法」の改正により、平成18年6月1日より動物の繁殖や販売に携わっている業者は、行政への動物取扱業登録が義務付けられました。

簡単に説明すると、ブリーダーでも、ネット仲介業者でも、ペットショップでも、法に基づく登録を行政にしていないと、営業自体を行ってはいけないということです。

業者といっても、大規模なところだけではなく、個人で繁殖を行っているブリーダーや仲介業者にもまんべんなく適用されます。

登録に際し、ブリーダーの犬舎やペットショップには、行政の立ち入り検査が行われ、きちんとした環境かを動物愛護センターの職員が、厳しくチェックします。また、無登録で、営業を行った場合は、30万円以下の罰金が科せられます。

もうお分かりですね、不良ブリーダーや悪徳ペットショップは、登録が通らない可能性が高いため、無登録で営業を行っているところが多いのです。（言い訳として、うちは小規模で個人営業だから登録は必要ないと言ってきます。）

また、登録を行っている業者でも悪事を行えば、登録取り消し処分が下され、営業自体ができなくなってしまうます。

そのため、この改正がおこなわれて以降は、以前に比べると、悪事を行うブリーダーやペットショップが激減し、淘汰が行われているようです。

この改正で、信頼できる購入先は、圧倒的に探しやすくなったと言えるでしょう。動物取扱業登録を行っているかどうかは、本当に最低限のチェック項目であるといえます。

② 無償の生命保証が付いているか

不良ブリーダーや悪徳ペットショップは、「売ってしまえばそれで終わり」と考えているため、生命保証を付けることなど絶対にありません。

また、子犬が死亡してしまっても、冒頭の事例のように、売ったあとはすべて飼い主の責任として、まったく取り合おうともしません。

逆に言うと、優良ブリーダーや優良ペットショップは、「子犬を死なせない」ための知識をしっかりとって、子犬を死なせないように努力をしているため、自信を持って生命保証を付けてきます。

最低限、引き渡し後 1 週間以内に死亡した場合の生命保証が付いている購入先より、子犬を迎え入れるようにしてください。(もちろん長ければ長いほど良い)

引き渡し後にパルボウィルスやジステンバーが発症した場合、死亡に至るまでの期間は、たいてい 1 週間以内だからです。

この期間を乗り切れば、子犬は順調に成犬まで成長する可能性が高くなります。

よく、子犬代の〇割を支払えば保証すると言ってくるところがありますが、こういったところは、やめておいた方が無難です。

子犬を死なせない自信がないからこそ、こういった保証を提案してくるわけです。

また、優良ブリーダーやペットショップは、引き渡し後に先天性の異常が判明した場合の保証についても、生命保証と同様に、明らかにしていることが多いです。

明らかにされてない場合は、どのような取り扱いになっているのか、はっきりさせた上で、購入先を選ぶのがよいでしょう。

③ ワクチン接種と引き渡しの時期は適正か

子犬にワクチン接種をしないで引き渡しを行うことは、子犬に死んでくれと言っているようなものです。

特に、引き渡し後は、急激な環境の変化で、子犬に大きくストレスがかかります。

どんなに健康な子犬でも、環境の変化に順応するまで、免疫力が低下し、便が緩くなったり、元気がなくなったりといったことが起こりえるのです。

その免疫力が低下した時に、ちょっとでもウィルスに触れると・・・もう分かりますね

子犬の命を守るためにも、必ず 1 回目のワクチンを接種してから引き渡しを行う、ブリーダーやペットショップを選ぶようにしてください。

第 1 回目のワクチン接種時期は、生後 50 日～60 日前後がベストです。

ただし、ワクチンの項目でも説明した通り、接種時期に明確な決まりはありません。最低でも、きちんと 1 回目の接種を行ってさえいれば、問題はないでしょう。

また、ワクチン接種後は、最低でも 3 日間は安静にしてから、引き渡しを行なうようにしてください。(ワクチン接種は、体に毒を入れ抗体をつくるということです。)

ワクチンを接種した場合は、子犬と一緒にワクチン証明書を受け取りましょう。
証明書をもらわない限りは、本当に接種をしているのかどうか分かりません。

次に、子犬の引き渡し時期ですが、今まで述べたとおり、早期引き渡しは、子犬の社会化期の面でも、感染症対策の面でも、問題が非常に多いです。

生後 50 日より前を指定してくるようなブリーダーやペットショップは、危険度が高いため選ばない方が賢明です。

2. 優良なペットショップを見分ける方法（Aのルート）

まず、はじめに言っておきますが、私自身はペットショップより、ブリーダーから直接購入するのが一番だと考えています。

実際にブリーダーの犬舎を見学して、子犬を見て、親犬を見て、ブリーダーの人柄を見て、飼育方法を教えてもらって、アフターフォローをしてもらうのが一番です。

この点を考慮に入れて、優良なペットショップを見分ける方法を説明していきます。

① 自家繁殖のペットショップかどうか

ペットショップは、子犬の入手先から、主に2つに分類することができます。

1. 子犬をどこからか仕入れて販売しているペットショップ
2. ブリーダー直営の自家繁殖のペットショップ

まず、セリ市等の流通業者から仕入れているショップは、当然対象外となります。（今までのお話しで理由はお分かりになりますよね。）

同様に、子犬をブリーダーから仕入れているショップも、対象外とします。

こういったペットショップでは、持ち込んだ子犬の買い取りを行っています。子犬を売りたいブリーダーは、ペットショップへ子犬を持ち込み、簡単なチェック後に、値段が折り合えば、買い取ってもらえるのです。

もちろん、子犬のみで値段が付けられるので、親犬等の情報や遺伝病の有無なども、ペットショップ側には分かりません。

唯一、考慮に入れていいのが、ブリーダー直営のペットショップの場合です。

この場合は、自分のところで生まれている子犬なので、親犬などの情報も分かりやすく、気の利いたところでは、親犬に会わせてくれるところもあります。

この項目の判別は、ペットショップの店員に、次のような質問をしてみれば簡単に分かるでしょう。

- ・ **この子犬はどこで生まれたのですか？**
- ・ **この子犬の親犬の大きさはどれくらいですか？**
- ・ **この子犬の親犬に会うことはできますか？**
- ・ **この子犬を育てたブリーダーと話すことはできますか？**

これらの質問に明確に答えられないようなところは、やめておいた方が無難です。逆に、ブリーダー直営の場合は、しっかりとした答えを返してくれるでしょう。

② ショーケース販売をしていないか、していても時間を決めた展示をしている

1の条件をクリアした、自家繁殖のペットショップをさらに絞り込んでいきます。

ショーケース販売は、子犬に大きな負担がかかるため、優良なペットショップは、子犬のことをきちんと考え、ショーケース販売自体を行っていないか、時間を決めた展示を行っています。

ショーケースがない場合は、一目瞭然ですが、ショーケースがある場合は、展示時間について、質問をしてみましょう。

ショーケースがない場合は、写真や情報等を掲載しておき、お客様が検討段階に入ったときのみ子犬を連れてくるといった場合がほとんどです。

3. 優良なインターネット仲介型のペットショップを見分ける方法（B のルート）

インターネットを使った仲介販売は、参入が容易なこともあり、ここ数年で非常に多くの業者を見かけるようになりました。

簡単に参入できるため、脱サラしたばかりの犬のことを知らない素人が、マンションの一室で運営していることが多いです。（犬を一度も飼ったことがない場合も・・・）

そして、儲からないことが分かったら、ホームページを消して、撤退していきます。

ホームページ上では、ブリーダー直販などと表示して、あたかもブリーダーが直接販売しているように見せかけています。

しかし、実態は、ブリーダーから子犬の写真を受け取り、それをホームページに掲載して、購入が決まると、子犬を右から左に流すブローカーのようなものです。

ブリーダーの販売する金額に、10 万円程度を上乗せして販売し、飼い主が決まったら、その分を仲介料として受け取ります。（中には 20 万円以上、上乗せも・・・）

ブリーダー運営との違いは、問い合わせに対しブリーダー本人が対応するのか、店長などといった肩書の第 3 者が対応するのかで判別が可能です。

ブリーダーを厳選しているというのが、彼らの言い分ですが、その割には、ホームページ上で常にブリーダーを募集し、来るものは拒まずの状態となっています。

そのためトラブルも多く、トラブルが起きた場合も、たいていはブリーダーへ丸投げとなるため、仲介の意味をなさないことが多いです。

ただし、悪いことばかりではなく、子犬自体は、ブリーダーから直接、飼い主に引き渡されますので、ペットショップより健康な子犬である可能性は高いです。

残念なことです、この形式で優良なショップは、ほぼ皆無に近い状態です。

中には、保証や見学時のアドバイス、アフターフォローなどで仲介料に見合うだけのサービスを行う優良な業者もありますが、本当にごくごく一部です。

数少ない優良なインターネット仲介業者を選ぶ基準を説明しましょう。

① きちんとした住所地に事務所を構えているか

住所の末尾が 301 など明らかに部屋番号になっていないかを確認してください。

部屋番号になっている場合は、この業界に参入したばかりの、犬の知識が少ない素人がマンションの一室で運営している可能性が高いです。

また、幽霊業者の可能性もあり、入金後に連絡が取れなくなることも・・・

② 実際に子犬の状態を自分の目で確認しているか

子犬の出生地と仲介業者の住所がかけ離れていないかを確認してみてください。

仲介業者の住所が関東で、九州のブリーダーの子犬を掲載していたら、写真を取り寄せるのみで、自分の目では子犬の状態を確認していないということです。

問い合わせに対して回答するのは仲介業者ですが、自分の目で確認していない子犬への質問に、正確に答えることができるでしょうか？

優良なインターネット仲介業者は、自分の目で子犬の状態を確認し、自分の手で掲載する子犬の写真を撮影している場合が多いです。

③ すべての子犬が見学可能かどうか

仲介業者の中には、「子犬はブリーダーから直送」などと明言しているにもかかわらず、セリ市などで安く買い上げた子犬を掲載している悪質な業者もいるようです。

その場合は、見学自体を断られるか、見学が可能な場合でも、ブリーダーの犬舎ではなく、どこか別の場所で見学とする場合が多いです。

(「犬舎まで来るのは大変ですので、途中まで連れていきましょう」と言ってきます)

トラブル防止のためにも、できる限り犬舎への見学を行い、自分の目で子犬を確認した上で、購入するようにしてください。

これは、インターネット仲介業者の場合だけではなく、ペットショップやブリーダー運営のホームページで購入を決める場合も同様です。

④ クレジットカードやペットローンは使用できないと明言しているか

日本のほとんどのクレジットカード会社は、生体販売におけるクレジットカードの利用を許可していません。(ライフカードとスルガ銀行のみが条件付きで可とのこと)

ホームページ上でクレジットカードが使用可能となっている場合は、カード会社をだまし、生体販売ではなく物品販売と偽って、カード処理をしているということです。

また、中には分割払いに対応するため、ペットローンを勧めてくる業者もあります。ペットローンと言うと聞こえはいいですが、実態は「消費者金融」に他なりません。

消費者金融を勧めてくるような業者に、まともなところがあるといえるでしょうか？

4. 優良なブリーダーを見分ける方法（Cのルート）

私が、一番理想だと考えるのは、もちろんこのブリーダー直販の方法です。
実際に、欧米では、ブリーダー直販が子犬販売のスタンダードになっています。

ただし、ブリーダーも犬舎の規模によって、その質に大きな差がみられます。
優良なブリーダーを判別するために、まずはそこから詳しく見ていきましょう。

・ 家庭ブリーダー（親犬1～5頭程度が多い）

商売としてではなく、犬の事が本当に好きでブリーダーになった方が多いです。

それだけに、お母さん犬、子犬ともに深い愛情に包まれ、大切に育てられます。
（お母さん犬は、繁殖犬という扱いではなく、あくまで家族の一員という認識）

主婦の方が多く、ブリーディングは自分の住んでいる一戸建ての家の中で行われ、
そのため、衛生環境についても手が行き届いています。

健康な子犬が生まれるよう、ブリーディングに関してもそれなりに勉強をしており、
また、環境が良いことも手伝って、子犬の健康状態は、良好な場合が多いです。

愛情を持っているがゆえに、子犬の行く末が気になり、「ペットショップへは販売し
たくない」、「子犬の飼い主は自分で選びたい」と考えている方がほとんどです。

・ 個人ブリーダー（親犬10～20頭程度が多い）

このレベルでは、犬種を絞ったこだわりのブリーディングをしている方が多いです。

血統についてもよく研究し、ドッグショーなどに出陣するブリーダーも、ほとんどがこのグループに属します。

必然的に販売する子犬も血統が良く、チャンピオン犬の直子などが多くなります。

良い血統を、後世に残そうと考える、ある意味で真のブリーダーであるといえます。もちろん、環境には非常に気を使っており、子犬の質も非常に高いです。

ただし、チャンピオン犬と交配するためには、高額な交配料がかかるため、ショータイプの子などは、一般的な子に比べ値段が高くなる傾向にあります。

・ 中規模ブリーダー（親犬 40～60 頭程度が多い）

このレベルより、ブリーダーを商売として営んでいる方が多くなってきます。

規模的には、専業として営むにはまだ厳しいため、ブリーダー業と並行して、ペットショップやペットサロン（犬の美容室）、ペットホテルを営んでいる場合が多いです。

ブリーダー1 人では親犬や子犬のすべてに目が行き届かなくなり、従業員を雇わないと、衛生環境をきれいに保つことが難しくなります。

そのため、ある程度の規模までは、夫婦 2 人で運営している場合が多いです。

従業員の数により、犬舎の衛生環境に差が出ますので、きれいな環境のブリーダーと汚い環境のブリーダーとに、大きく二極分化しています。

あくまで商売としてブリーディングを行い、ドッグショー、血統、犬種へのこだわりも少なく、比較的価格も安めに設定した子犬が多い傾向にあります。

・ 大規模ブリーダー（親犬 100 頭以上が多い）

このレベルでは、100%営利目的でブリーディングを行い、子犬もペットショップや中間流通業者へ卸している場合がほとんどです。

ブリーダーからの直接販売は、出産頭数も多く、対応に手間がかかるため、ほとんど行われていません。（子犬の見学も、受け付けないことが多い）

個人としてではなく、有限会社・株式会社として運営しているところが多くなります。この辺のレベルになると、ブリーダーというより、繁殖業者といった感じですね。

多くの従業員を雇っていないと、衛生環境をきれいに保つことは難しく、そのため、劣悪な環境に陥っている場合も多いようです。

不良ブリーダーも多く存在しているといわれ、パピーミルと呼ばれる、子犬の乱繁殖業者もこのグループに属します。

・ 素人ブリーダー（自分の飼い犬が出産）

ブリーダーとしての知識をまったく持たず、「自分の飼い犬の子供がみたい」などの理由で、子供を産ませそれを販売するにわかブリーダーです。

中には、オス・メス 2 頭を飼っていて、いつの間にか妊娠していたということも・・・

以前は、動物取扱業登録が必須ではなく、誰でも子犬を販売できたため、チワワやダックスフンドなどの流行りの犬種で多く見られました。

（現在は、登録していないで販売すると違法になるため、かなり減ってはいます。）

ブリーダーとしての専門知識を持たないため、乱繁殖や、掛け合わせをしてはいけない毛色や毛質との交配を行い、先天性の疾患が発生することも多いようです。

これらの分類をふまえ、次に優良ブリーダーを選択する基準を説明していきます。

① できるだけ規模の小さいブリーダーを選択する

子犬の購入先として、「家庭ブリーダー」、「個人ブリーダー」のレベルでしたら、問題なく選択肢に入れてもいいでしょう。(未登録の素人ブリーダーは論外です)

「中規模ブリーダー」に関しては、二極分化していますので、従業員を雇い、衛生環境がしっかりしていることが必要条件です。

ブリーディングの規模が小さいと、その分、子犬に対し愛情が注がれますので、子犬の質および健康状態が良いことが多くなります。

あまりに多くの子犬を一度に販売しているブリーダーは避けた方が無難です。

この項目を正しく判断するには、どうしても犬舎への見学が不可欠になります。特に「中規模ブリーダー」は、実際に犬舎を見学しないと判断が難しいでしょう。

ここで1点注意しておくことがあります。

規模が小さいブリーダーほど、見つけることが難しいという事実です。。。

規模が大きいブリーダーは、商売として営んでおり、広告にもお金をかけていますので、インターネットでも比較的簡単に見つけることができます。

それに対し、商売を度外視している小規模な「家庭ブリーダー」や「個人ブリーダー」は、ホームページを持っていない場合も多く、非常に見つけにくいのです…

この問題は、このあとの「優良ブリーダーをどこで見つけるのか」の項目で、具体的に探す方法を説明していきますね。

② 必ず子犬の見学が可能なブリーダーを選択する

・ 見学不可のブリーダーは対象外へ

見学ができないブリーダーは、その時点で選択の対象から外した方が無難です。

犬舎の環境が悪いブリーダーは、もっともらしい理由を付けて見学ができないと断わりを入れてきます。(「見学は子犬の衛生面で良くない」とか言ってきます。)

・ 子犬の見学時に確認する項目

子犬の質を見学時に正確に判断することが難しいのは、前に説明した通りです。

見学の際に何をメインで見るかといえば、ブリーダーの人柄と犬舎の環境です。

子犬のことを大切に思っている人は、言葉や態度などにもそれが表れるものです。逆に、子犬を商売の道具としか思っていない言動が見られれば、そのブリーダーからの購入はやめておいた方が無難でしょう。

また、きちんとした環境の犬舎でしたら、臭いもそれほど感じないはずですが、(犬がたくさんいるため、完全にゼロではないですが、鼻が曲がるほどではない)

逆に劣悪な環境のブリーダーは、鼻が曲がるくらいの強烈な臭いがします。あまりに汚いと感じるようなブリーダーは選択肢から外していきます。

臭いが強烈な環境のブリーダーでは、寄生虫や寄生原虫(コクシジウムやトリコモナスなど)が多く見られ、引き渡し後に体調を崩すことも多いです。

優良ブリーダーは、間違いなく犬舎の臭いや環境にかなりの気を配っています。

・ 両親犬の見学について

両親犬については、子犬選びの参考にするために、見学できるに越したことはありませんが、優良ブリーダーでも見学ができる場合とできない場合とがあります。

書籍には必ず両親犬を見学するよう書いてありますが、それは誤った情報です。「見学できないから悪いブリーダーだ」とは言い切れませんのでご注意ください。

父親犬：

父親については近親交配を避けるため、外部に交配を依頼することが多いです。（個人ブリーダーの場合は、良血統のチャンピオン犬などと交配させることが多い）したがって、父親犬が犬舎にいないことは珍しいことでもありません。

母親犬：

出産は母体に大きな負担がかかるため、出産後はかなりやつれてしまいます。（毛色も子供に栄養分を取られるため、通常より薄くなってしまいます。）
安静にさせるためと、出産後にやつれることを知らない方の誤解を避けるために、見学を許可しない場合があります。

・ ブリーダー見学時の注意点について

ブリーダーは、ペットショップと違い展示販売をしているわけではないので、通常はあらかじめ日時を予約し、その時間に見に行くような形になります。

最低限のマナーですが、見学の前にペットショップに寄ったり、同じ日に何件も見学を行うようなことは、感染症の面からも行わないようにしてください。

あなたが、感染症のウィルスの運び手になるような行為は、子犬を危険にさらしますので、絶対に避けるようにお願いします。

5. 優良なブリーダーをどこで見つけるのか

商売を度外視した小規模な優良ブリーダーほど、大々的には広告を出していないため見つけにくいことを説明いたしました。

ここでは、実際にどういった方法で優良ブリーダーを探せばいいのか、解説をしていきます。

① 誠文堂新光社「愛犬の友」1月号から探す

1年に1回、1月号ではブリーダー特集ということで、数多くのブリーダーが広告を出しています。(1年に1回ここにだけ広告を出すという方も多いです。)

どちらかというと、ショーにチャレンジするような「個人ブリーダー」の方が多い傾向にあります。(ここに掲載するのが一種のステータスになっています。)

ホームページを持っていない、またインターネットも扱えないという方も多いです。

現在、どの子犬が生まれているのかなどの情報は記載されていなく、信頼できるブリーダーかどうかの情報も少ないため、敷居は多少高いといえます。

なお、1月号以外でも子犬出産情報のスペースはありますので、そこから問い合わせるというのも一つの手段となります。

② インターネットで「犬種名 ブリーダー」で検索する

ただし、この方法ですとホームページを持っていないブリーダーは当然調査の対象にはなりません。(ホームページを持っているブリーダーは全体の中の一部ですので、その点で注意は必要でしょう。)

また、検索上位には検索エンジン対策を施したインターネット仲介事業者やペットショップ、大規模なブリーダーなどのホームページが多い傾向にあります。

ですので、最低でも 100 ページ近くは、確認していく必要があるでしょう。

また、ホームページを持っていても、日々の更新作業が追い付かず、放置状態になっているブリーダーも多いため、信頼に足る優良なブリーダーを見つけるためには、多少の根気が必要になります。

③ 子犬出産情報のポータルサイトで探す

ブリーダーズが属しているのが、こちらの出産情報ポータルサイトです。

ブリーダーズ・ポータルサイト: <http://www.breeders.jp/>

欧米では、ブリーダー直販の文化が発達していることは、前にも述べました。

では、欧米ではペットショップの展示販売なしで「どこで子犬を探しているのだろう」と疑問に思い、調査をしてみた結果は、このようなポータルサイトの存在でした。

そこで、欧米のやり方にならって作成したサイトが『ブリーダーズ』になります。

実際のブリーダーの子犬情報を写真付きで確認することができ、また信頼に足るブリーダーかどうか評価の項目で確認することが可能になっています。

保証条件や見学の可否、動物取扱業登録の有無なども確認できるようになっているため、このマニュアルに沿って優良ブリーダーを探すことが可能です。

ブリーダーへの問い合わせや見学の希望も、フォームから簡単に行えるため、愛犬の友などに比べると問い合わせを行いやすい環境にあるといえるでしょう。

おわりに ～ブリーダーズの使命

- ・ ブリーダーズは断固として戦っていきます！
既存の間違った日本ペット業界の常識に・・・
- ・ ブリーダーズは決してあきらめません！
流通過程で死んでいく子犬を1頭でも減らすために・・・
- ・ ブリーダーズは徹底的にこだわります！
すべてはあなたに健康な子犬をお届けしたいから・・・

正直、上の使命は、自分自身にはかなり重いテーマだなと考えています。
しかし、立ち止まってばかりじゃられません。

間違ったペット流通事情の中で、**いまも多くの子犬達が死んでいっている**のです
また、この流通を通った子犬を購入して**後悔する人も後を絶たない**のです。

「ペットの流通に革命を起こす！」・・・正直、一人では実現するのは難しいでしょう。

しかし私には、子犬の未来を真剣に考えている、多くのブリーダーさんがいます
そして、元気で健康な子犬を真剣に望んでいる「あなた」がいます。

先は長いかもしれませんが、でも、一步一步確実に前進していきます。

以前、私は、日本で1・2の売り場面積を誇る、大手ホームセンターの本社に勤めていました。その中には当然ペットショップがありましたので、その内状は充分に知っているつもりです。

実際、私が以前の会社に勤めている時期に購入したダックスフンドのヴィヴィアンは、会社のペットショップからは購入しませんでした。

社員割引があるにも関わらず、会社の店からは購入しなかったのです。

いや…**怖くて購入できなかった**という表現のほうが正しいでしょうか。

それは、ペットショップの内情をかなり深くまで、知っていたからです。

どれだけの値段で仕入れ、売上がいくらで、何頭の子犬が死亡し、最終的な利益はいくらなのか。その店の売り方、管理方法、管理状況、問題点。すべてを知ることのできる立場にいました。

また、毎月のように発生する**お客様からのクレーム**。

クレームの内容は、やはり生き物である子犬・子猫に集中していました。

それも、引渡し後すぐの病状悪化・先天性疾患等のトラブルがほとんどです。

その処理内容の報告書を読むと、内心この対応はどうなのかなというものも少なくありません。報告書には淡々と書かれていましたが、お客さん泣いてるだろうなって感じるものも多かったです。

会社の利益とお客様への対応、この間で激しくゆれ動いていたことを今では懐かしく感じます。

感染症で、店にいた子犬が**ほぼ全滅**に近い状態になった惨状を見たこともあります。「どんなに気をつけていても、防げないこともある」その店の担当者が、漏らしていた言葉です。

今にして思えば、いずれも**流通経路に問題**があったのだなと考えてしまいます。

結局、いろいろ調べた結果、ヴィヴィアンは**ブリーダーから直接購入**することに決めました。

最初は、インターネットで子犬を買う…ものすごい抵抗感があったのは確かです。

でも、しだいに「ブリーダーさんへの訪問もできるし、いろいろ疑問点を質問することもできる。**インターネットだから抵抗感があったが、別に子犬を探すためのただの入り口に過ぎないんだな**」というように思えるようになりました。

そして、ブリーダーさんといろいろ話をする中で、購入する上での不安は薄れていったのです。むしろ、この方法こそ、自分が探し求めていたものではないか？
そう、思えるようになりました。

ヴィヴィアンは今でもむちゃくちゃ元気です。
(元気すぎてバカなときもたまにありますけど 笑)

そして、ヴィヴィアンに出会えたことに今は感謝の気持ちでいっぱいです。

それから、会社でのペットショップの生体の取り扱い方に激しく疑問を抱くようになりました。

子犬を買ったら、病気持ちなのが判明し、お父さんに返してこいって言われ、泣きながらお母さんと子犬を連れてきた小さな女の子…いまでもよく覚えています。

ブリーダー直販がもっと広まれば、悲しい思いをする人がもっと減るのでは？

そう考えたのが、ブリーダーズを立ち上げたきっかけです。

**より多くの人に、元気で健康な子犬をお手頃な価格でお届けする！
そして、何より「あなた」のまぶしいばかりの笑顔を見ていきたい！！**

これをポリシーに今日もがんばっていきます。

ブリーダーズ 子犬コンサルタント **古川 英大**

【ブリーダーズについて】

子犬の出産情報ポータルサイト「ブリーダーズ」

<http://www.breeders.jp/>

このマニュアルへの感想はこちらにお願いします。

随時情報の追加、加筆等を行っていきたいと考えております。

info@breeders.jp

【著作権について】

このマニュアルは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意いただきご利用下さい。

このマニュアルの著作権は作成者に属します。著作権者の許可なく、このマニュアルの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このマニュアルに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このマニュアルの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このマニュアルを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このマニュアルが、あなたの家族探しに役立つことを祈っております。

